

【特別支援学校用】

令和8年度学校評価計画

学校名	佐賀県立唐津特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・設定したすべての評価項目で、成果指標を達成することができた。 ・学部間連携を図るため、学部移行の際の引継ぎのための授業参観を設定した。個別の指導計画や個別の教育支援計画等の作成は級外等の助言を得ながら作成する体制を取ることができた。 ・進級時の引継ぎを確実にするため、年度当初に早下校を4日間設定した。 ・働き方改革の推進については、9割の職員が業務の効率化を意識したと回答しており、確実に改善している。また、職員の休憩時間を確保するため、次年度は下校時刻を10分早めることが決定した。
2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の「今、ここにある力」と可能性を信じ、「すでにうまくいっていること」を土台に、一人一人の自立と社会参加に向けた教育活動の推進に努める。 ②職員の意識改革や学校の業務改善等に引き続き取り組み、働き方改革の推進に努める。

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1)共通評価項目				
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○「児童生徒の教育的ニーズを踏まえた指導・支援により、確かな学力の定着が図られた」と回答した保護者85%以上 ○「個別の指導計画をもとに指導及び評価を適切に行うことができた」と回答した教員85%以上	・個人懇談や支援会議を通じて、児童生徒の教育的ニーズを的確に把握する。 ・早下校を設定し、引継ぎや評価の時間を確保する。 ・専門性向上のための研修会を計画的に実施し、「自立活動だより」等で情報提供を行う。	教務部 自立活動部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学部を超えた学習活動や交流及び共同学習の実施 年間3回以上 ○人との関わりを重視した単元を学期に1度は取り組む。 ○年間3冊以上図書室の本を借りて読んだ児童生徒80%以上	・交流及び共同学習(居住地校交流・学校間交流)を計画的に実施する。 ・知肢合同単元や学部合同単元等を計画的に実施する。 ・学級や学年の単元、学部の行事等において、取組内容意識して活動を行う。 ・図書まつりや読み聞かせ会等を通じて本に興味を持つよう啓発活動を行う。 ・図書に親しむ学習活動を設定する。	教務部 情報教育部 各学部(小 中 高)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員95%以上	・児童生徒からの発信を見逃さないように、日頃から丁寧に観察を行い、情報共有を行う。 ・連絡帳等を通じ、保護者との情報共有を行う。 ・年2回の学校生活アンケートによるいじめの認知・覚知を行い、組織的に早期の対応を図る。	生活安全部 各学部(小 中 高)
●健康・体づくり	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「学校は児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒める)取組を行っている」と回答した保護者90%以上 ●◎「お互いの頑張りを認めたり、達成感を共有したり、次の単元に向けた意欲をもたせたりするための学習活動を設定した」と回答した教員90%以上	・保護者や児童生徒に対し、よい点や頑張りや口頭、連絡帳、学級通信等で伝える。 ・児童生徒の望みを聴くよう心掛け、自己選択・自己決定の場面を設定する。 ・授業の最後に振り返りの時間を設定する。 ・「できる状況づくり」と授業づくりの「4つの視点」を周知し、実践する。	研究部 各学部(小 中 高)
	●「望ましい生活習慣の形成」	○学部の実態に応じた歯磨き指導を実施学期に1回以上実施 ○「健康で規則正しい生活を送ることができた」と回答した保護者80%以上	・歯科検診の結果を踏まえ、学校歯科医に指導助言を頂き、ブラッシング指導を実施する。また、保健だよりや掲示物を通して歯磨きの大切さを伝える。 ・要受診者に対する受診勧告を積極的に行う。 ・手洗い・うがいの励行、熱中症及び感染症予防について継続的に指導する。	保健部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○「特別支援学校の職員として、センター的機能を充実させるために何らかの役割を果たしている」と回答した職員80%以上	・センター的機能の充実に向けて特別支援教育に関する研修会に参加し専門性を高める。 ・行事や学校公開及び公開授業研究会において、日々の実践や支援を参観する機会を提供する。 ・交流及び共同学習の相手校に支援方法や活動内容を伝えたり共に考えたりする機会を設ける。 ・教材・教具や指導案等の情報提供を呼びかけ、地域支援の折に共有する。 ・巡回相談への同行参加を呼びかけると共に、巡回相談の実際について知る機会を設ける。	支援部 情報教育部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○時間外在校等時間前年度比マイナス1時間を目指す。(月平均19時間以下) ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇取得日数14日以上	・毎週金曜日を定時退勤推進日と、うち月2回を完全定時退勤日と位置付け、計画的な業務の遂行を促す。 ・会議内容の精査と時間短縮を図る。 ・パーソナルタイムや早下校を設定し、個人の業務時間を確保する。	管理職
	○教職員の働き方改革の推進	○「働き方改革を意識し、自らの働き方が改善した」と回答する教職員の割合80%以上	・最終下校時刻を10分繰り上げ15時20分とし、休憩時間を確保する。 ・うまくいった取組に目を向け、好事例を校内で共有、実践する。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組 重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○キャリア教育の推進	○一人一人に即した進路指導の充実	○児童生徒及び保護者のニーズに応じた情報提供や就業・施設体験の設定ができていると回答する保護者の割合80%以上	・保護者向け進路学習会を計画的に実施する。 ・福祉サービス事業所の情報収集と提供に努める。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業や事業所を開拓する。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---